

社員の成長・働きがいを重視し、 関わる人全員が幸せになる会社づくりを実現

S 株式会社 島田電機製作所
Shimada Electric Manufacturing Company

株式会社 島田電機製作所

会社概要

創 立：1933 年
所 在 地：東京都八王子市大和田町 3-11-1
資 本 金：1200 万円
従 業 員 数：55 名



エレベーターの押しボタンやエレベーターの到着灯など、オーダーメイド生産のエレベーター表示器専門メーカーです。新しいことにチャレンジすることを忘れず、人も会社もオンリーワンを目指して、100 年企業へと着実に歩みを進めています。

事業活動はファンづくりの一環
社員からも顧客からも愛される企
業でいたい



代表取締役社長
島田 正孝

社員の思いが島田電機というブランドを作り、ファンを作っていく。そのためにも、社員に愛される企業であることを目標としています。

誰もが働きたくなる会社にするため、古い町工場に改革を起こし、今までの常識をひっくり返すような施策で生まれ変わったのが、株式会社島田電機製作所です。本当に風通しのよい企業とは何か。社員にとってお客様にとって、本当の幸せとは何か。突き詰めた末、人材に注力するようになったきっかけや、取り組みについて島田社長にお話を伺いました。

この記事のポイント

- ①社員の個性を生かし、イキイキワクワク働く仕組みを構築
- ②社員も地域の人もファンにする仕掛け
- ③時代に合ったフラットで自立した組織の在り方を模索

個性を生かして働ける仕組みを

会社を変えようと思ったきっかけは？

21歳の頃に入社した時、「働きたい会社ではない」と感じました。昔ながらの町工場を変えていくことは大変かもしれないけれど、多くの人とぶつかりながらも会社を改革すべきだと考えました。そして、上海に行ったことも大きなきっかけだったと思います。上海と日本とでは当たり前だと思っていた常識が全く違いました。「きれい」という感覚、ただそれだけのことなのに文化や環境によって、全く異なることを見て、感じて、価値観の違いを改めて実感しました。「社員も一人ひとり価値観が違う」ことを再認識し、より会社を変えたいという気持ちが強くなりました。



独自の取り組みについて教えてください。

まず、新卒採用の制度に島田電機製作所独自のものを取り入れています。面接時には自由な服装で来ていただき、そしてラブレターを持参してもらいます。面接のために創り上げた自分ではなく、普段の自分らしさをそのまま出してもらいたいのです。そして、自分らしさをさらけ出したうえで、「会社にとっても、その人にとっても、お互いに居心地がいいかどうか」といった本質の部分を見極めたいと考えています。

他にも、社員同士がコミュニティを構築しやすいようにと、社内に「ボタンちゃんカフェ&バー」を設置しました。アルコールも常備されているため、終業後にお酒を飲んで帰宅する人もいます。社員同士で仕事では話せないラフな会話ができたり、お客様もカフェバーに招待して交流を深めたりします。社内にあることで誰でも気軽に利用しやすい、コミュニケーションを取りやすい空間となっています。



マスコットキャラクター
ボタンちゃん



島田電機製作所のファンをつくる



「働くとは人を喜ばせること」事業活動はファンづくりだと考えています。あるとき「子どもがどこに行ってもエレベーターのボタンを押したがって困っている」と、お母さんから相談されました。その悩みを解決するため、会社に招待しお話を聞いているうちに、社内に「押しでもいいボタン」を作ろうというアイデアが生まれました。ボタンの早押しができる「30秒早押しチャレンジ」は口コミでどんどん広がり、体験したいと応募してくれる人が急増しています。結果的に島田電機製作所のことを地域の人に知ってもらうきっかけとなり、私が目指しているファンづくりへと直結する形になりました。

社員の皆さんも会社のファンになるカギは？

お客様にファンになってもらえたように、社員も会社のファンになってくれるように、30以上の働きたくなる仕組み・仕掛けがあります。採用のカジュアル面談+ラブレター、ボタンちゃんカフェ&バーもその一つです。他に、代表的なものとして、カッコいいオフィス、社員が選ぶ月間 MVP 社員表彰、成長応援制度、などがあります。社員が会社のファンになることでの一番大きい効果は、「風通しがよくて働きやすい」と言ってもらえることですね。物理的にも心理的にも壁を感じず、自分らしくイキイキと働ける。そんなふうに社員から言ってもらえることが増えました。

既存のお客様からの反響も変わりましたね。昔からつながりがあるお客様とより強い信頼関係を築くことができ、真摯に向き合い絆が深まっていくことは、会社としてとても大切にしたい部分です。社員が会社のファンになることで、会社のことが自分ごととなり、熱量があがり、結果的に会社のイメージアップにつながります。社員とお客様、そして会社にとっていい循環ができれば、関わる人全員が幸せになれると考えています。



社員をファンにする経営で得られる効果

社員を会社のファンにする考え方で企業に対する共感・愛着・信頼を得ることができます。社員が働きたくなるような仕組みを作ることで、人材定着や心理的安全性が保たれ、パフォーマンスの向上にも効果があるでしょう。



島田塾で社員の人間力向上

——— 社員教育にも力を入れているそうですね。

会社として人の成長を見守るような仕組みが必要だと感じ、島田塾を立ち上げました。

社長である私が講師として指揮をとります。そこでは、人の本質的な成長につながるようなスキルや考え方を社員に伝えています。昔はテクニカルなスキルがあれば基本仕事ができていたかもしれませんが、しかし、時代は目まぐるしく変わっていきます。今はヒューマンスキル、いわゆる人間力が重視される時代だと感じています。とくに、今の若い人たちは周りから教えてもらえる環境が整っていないと感じる部分が多いのが正直なところです。だからこそ、人間形成の部分も会社がしっかり責任を持って社員に伝えていくことが大切です。



Message

人を大切にするために社長が背中を見せる

社長と社員、そして社員同士の壁がなくなった次の段階として、管理をするという形のヒエラルキーの前提を壊したいという希望があります。「部長・課長と呼ばない」と言った小さなことでも一歩踏み出すことが難しいようなことから少しずつ始めていきたいです。そのために、自発的に取り組めるルールや仕組みを構築していくべきと考えています。そして、同じように人材を大切にする中小企業を増やしていきたいです。

人材を大切にしたいと感じるならば、経営者はすぐにでも行動すべきだというのが私の考えです。まずは経営者自身が何を成し遂げたいのかを考え、行動で示し、変化を社員に見せることがスタートだと思います。そして、目標の先には何があってどんな未来を思い描いているのか、経営者自身の価値観をオープンにしていくことで、明るい未来へと歩み進めることができるはずです。島田電機製作所もまだやりたいこと成し遂げたいことがたくさんあります。これからも、幸せになれる企業づくりを目指していきたいです。